

高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 136 号

2015.6.15

高原の自然館

「苅尾（かりお）」とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人達は親しみをこめて
「かりお」の名前を使っています。

もくじ

お知らせ

- ー緑のふるさと協力隊のご紹介
- ー水辺の生き物展示中

活動報告

- ーサクラソウの観察会
- ーブナ林の野鳥観察会

観察会案内

- ーせどやまの植物観察会（夏）
- ー霧ヶ谷湿原夏の生き物観察会
- ー夏休み親子観察会
- ーブッポウソウの観察会

お知らせ

●緑のふるさと協力隊のご紹介

2015年4月より、緑のふるさと協力隊2名が芸北に赴任されました。緑のふるさと協力隊とは、自分の将来への可能性を見つけようとする若者たちが農山村を舞台に、1年間、地域に密着したさまざまな活動に取り組むプログラムのことです。

神奈川県出身の吉田紗子さんと秋田県出身の鈴木昌人さんが、農林業に限らず地域で活動をひろげています。高原の自然館でも観察会や館内展示などの場面でお手伝いいただいています。出会った時にはぜひお声がけをおねがいします。

お二人の活動はこちらで紹介されています

緑のふるさと協力隊2015 北広島町：

<http://qq2q.biz/IU0I>

●水辺の生き物展示中

自然館では、滝山川や霧ヶ谷湿原に生息する生き物を展示しています。かわいいヒキガエルのどんべえや人懐こいカスミサンショウウオを始め、珍しいカワシンジュガイも、アブラボテやドジョウの水槽と一緒に住んでいますので、是非会いに来てあげてください。

観察会報告

●サクラソウの観察会

開催日時：2015年5月9日（土） 9:30

講師：下杉孝・暮町昌保・吉田康子

雨がしとしとと降り注ぐ朝、美和東文化センターに15名の参加者が集まりました。広島を飛び越えて島根県からの参加の方もおり、サクラソウという花の魅力を改めて思い知らされます。

まずは文化センターで講師による座学です。美和地区でサクラソウの保護活動をされている「サクラソウを育てる会」の下杉さん、植物の先生である暮町先生、遠路はるばる当日駆けつけてくださったサクラソウの研究者の神戸大学の吉田先生の3名に、サクラソウの歴史や園芸種としてのサクラソウ、美和のサクラソウなどについてしっかりと説明していただきました。美和には地域の方が育てているサクラソウと、元々美和に自生しているというサクラソウの2タイプのサクラソウがあるそうです。元々美和に自生しているサクラソウは、遺伝子学的にみると日本のどこに咲いているサクラソウともまったく違う遺伝子タイプのように、大変貴重なものなんだとか。話には聞いたことがありましたが、吉田先生のスライドでその比較図を見せていただき、どれだけ違うのかを実感することができました。その特別なサクラソウが、「地域の方々が育てている自生ではないサクラソウと交雑してしまうのではないかな？」という不安は当初あったそうですが、サクラソウの受粉を助ける虫（主にマルハナバチの女王だそうです）の性質上、心配しなくていいそうです。これを聞いて私もホッとしました。

吉田先生曰く、サクラソウの花は異形花柱性といって「短花柱花」「長花柱花」の二つのタイプがあり、この二種類の花同士が互いに受粉しあうことによって、種子ができることを「自家不和合性」というそうです。種が地中にずっと保存されていて、何かきっかけがあったら発芽するシードバンクという言葉など、かなり専門的なお話も聞かせていただき、参加者さんも「ここまで詳しく教えてい

ただけるなんて思わなかった」と喜んでいました。

しっかりとサクラソウについて座学で学んだ後、まずは文化センター近くにあるサクラソウを育てる会の皆さんが世話をしているサクラソウ畑に観察に行きました。朝から降っていた雨はどうなることやらと心配でしたが、このときにはもうほぼ止んでいる状態になっており、「雨、小降りになったね」と一安心。短花柱花、長花柱花をルーペで確かめてみたり、株によって花の色や形が微妙に違うのを観察したりと、思い思いに座学で学んだことをしっかりと目で確認されていました。

たくさんのサクラソウを楽しんだ後は、待ちに待った自生のサクラソウ観察です。車に乗り込んでさあ出発！自生地保護のために奥のあたりにあるのかな？と勝手に考えていましたが、思いの外道路の近くでびっくりしました。きちんと立て看板や侵入を防ぐための立派な柵もしてあり、地元の人たちがしっかり守っているのだと改めて思い知らされました。

今年はちょっと花が早めだったようで、ちらほらと緑の中から可憐な花が覗いているという程度でしたが、座学で美和のサクラソウは特別だと学んでいたからか、実際に咲いている様子を見ると少し胸が熱くなりました。

お天気は少しぐずついていたのですが、参加者さんたちと先生たちもしっかりと交流をとっておられ、終始雰囲気の良いサクラソウの観察会となりました。[まえだふせ]



まずは座学でしっかりと勉強。



ルーペを使ってしっかりと確認も。



自生するサクラソウもしっかり観察。



これは短花柱花，長花柱花のどっち？



雨上がり 水も滴る いいお花

【みなさんの印象に残った物】

「短花柱花，長花柱花よくわかりました」
 「短花柱花，長花柱花の見分け方」「さくら
 そうの種のでき方」「シードバンク，花の構
 造」「サクラソウに短花柱花、長花柱花の二
 種類のあることを知りおどろき」「現地見学」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「さくらそうは古い時代からあるとは知り
 ませんでした」「とてもよい会に参加でき
 よろこんでおります。先生たちのおはなしや
 参加された方々のおはなし，大変勉強になり
 ました。またこういうことをされている方々
 の心の豊かさを感じました」「3人のお話がわ
 かりやすかったです！」「素晴らしい企画で
 す」「楽しかった。講師の先生方に感謝」「さ
 くらそうの研究の先生のはなしを聞いたこと
 感謝です」「くわしく知ることができて満足
 しました」

観察会報告

●ブナ林の野鳥観察会

開催日時：2015年5月17日（日） 5:00

講師：上野吉雄

驚くほどいい天気となったブナ林の野鳥観察会の当日、24人もの方が、朝5時という早い時間ながら、臥竜山の雪霊水付近へと集合しました。天気は良くて麓もだいぶ暖かくなってきたとはいえ、流石は山の上。上着がないと肌寒く感じられます。

受付や今日の予定などを話している側から早速周囲から聴こえてくる野鳥のさえずりが聞こえてきました。

自然館に寄せられた情報で、4月の下旬にアカショウビンの声を聞いたということもあり、アカショウビンが見られたらいいね、アカショウビンの声がききたいという参加者が多く、果たして無事に見られるかどうかと期待しながらの開始です。

最初に聞こえてきたのはちょっと下手なクロツグミのさえずり？かと思いきや、上野先生曰く、なんとクロツグミの鳴き真似をしていたコルリではないか、とのことで、鳥も他の鳥の鳴き真似をするのかと新しい発見と驚きもありました。

目立つところでさえずることの多いオオルリと違い、コルリは声はすれども姿は見えずということが多いということでしたが、皆さんの日頃の行いが素晴らしいおかげでしょうか。なんと枝で少し見づらいながらも、フィールドスコープを通してコルリの可憐な姿を見ることが出来ました。次に姿を見せてくれたのは、オオルリです。かなり背の高い木のてっぺんに陣取り、見事なさえずりを聞かせてくれます。「日本三鳴鳥」と言われるだけあり、よく響くさえずりは見事なものでした。

カッコウの仲間であるジュウイチは「ジュウイチ、ジュウイチ」と鳴くからジュウイチと呼ばれるそうです。聞こえてきたジュウイチの声は確かに「ジュウイチ」と鳴いていて、可笑しい反面とてもビックリ。人間が「ジュウイチ」と言ってるのしか思えないくらい、はっきりとした「ジュウイチ」でした。

カッコウ、ホトトギス、ジュウイチというカッコウの仲間は、自分でひなを育てずに他の鳥の巣に卵を産むという、托卵をする鳥の仲間です。今まで托卵は全て成功するものだと思っていたのですが、「托卵された巣の親が気づけば、托卵したカッコウの仲間の卵を巣の外に捨てる」と上野先生が教えてくれました。托卵するもの、されるものの頭脳戦は思っている以上に白熱しているのかもしれない。

この時期の雪霊水周辺に生息する鳥といえば、誰もが気になるのがアカショウビン。

キュロロロ～という独特の声は何度か聞こえ、一瞬だけ赤い閃光のような姿が頭上を横切りましたが、やっぱりはっきりと見たい鳥です。

姿を必死で探しましたが、結局ほぼ声だけの確認で時間がきてしまい、今回のブナ林の野鳥観察会は終了。上野先生にお礼を言い、解散した直後のことでした。

「アカショウビンがおる！」

なんと、最後の最後でアカショウビンがしっかり姿を見せてくれました。なんて素敵なお臥竜山からの贈り物でしょうか。

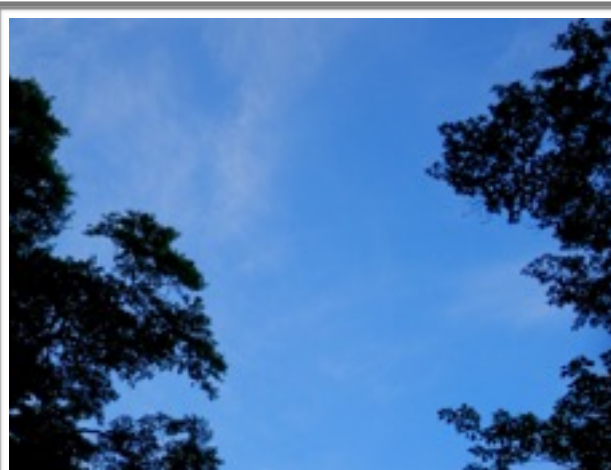
締めを括ったアカショウビンを始め、たくさんの鳥のさえずり、姿が確認できた今回の観察会。ブナ林の野鳥の多さに改めて驚かされた日となりました。[まえだふさ]



早朝にたくさんの方が雪霊水に集合。



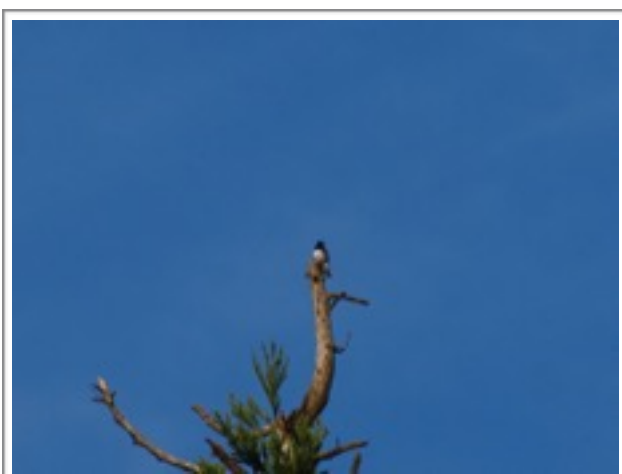
なんの鳥が見えるかな？



当日は終始いいお天気でした！



皆さんの視線の先には見えるのは、



樹の先っぽにオオルリ発見！

【みなさんの印象に残った物】

「いろんな鳥が見えて楽しかった」「アカゲラの姿、鮮やかさ」「アオゲラが間近で見れたこと」「アカゲラ、アオゲラ、カケスを見ることができたことです」「双眼鏡を借りて、色々な鳥やまゆを見たり、鳥の鳴き声が聞けたのでよかったです」「アカゲラをよく見れたこと」「キツツキの仲間を2種類が見れたこと」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「また参加したい」「鳥が多かった」「色々勉強になりました」「鳥の鳴き声が聞こえたら、すぐに名前を教えてもらえて嬉しかったです」「双眼鏡が欲しくなりました」「たくさん生物が見れて楽しかった」「どんな質問にも答えていただき、有意義な時間が持てた」

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

●せどやまの植物観察会（夏）

開催日時：2015年6月28日（日）9:30

集合場所：芸北文化ホール

講師：佐久間智子・中島康弘

定員：30名

準備物：基本セット

参加費：一般=300円、賛助会員=100円

正会員・中学生以下=無料

せどやま（家の裏山）の様子は季節により異なり、夏と秋で異なる植物が観察できます。座学のあと、現地に向かい、林の中や林の縁、道ばたや田んぼの畔などを歩きながら、身近な場所に生育する植物を観察します。

●ブッポウソウの観察会

開催日時：2015年7月12日（日）9:30

集合場所：芸北文化ホール

講師：上野吉雄・松田賢

定員：30名

準備物：基本セット、双眼鏡

参加費：一般=300円、賛助会員=100円

正会員・中学生以下=無料

育雛期のブッポウソウの観察会です。室内で座学を行った後、巣箱を設置してある場所へ移動します。巣箱の中の雛に親鳥が餌を運ぶ様子や、特徴的なくちばしの色などを見守りながら観察しましょう。

●霧ヶ谷湿原夏の生き物観察会

開催日時：2015年7月5日（日）9:30

集合場所：高原の自然館

講師：岩見潤治・大竹邦暁・内藤順一・松田賢
和田順次

定員：40名

準備物：基本セット

参加費：一般=300円、賛助会員=100円

正会員・中学生以下=無料

夏の霧ヶ谷湿原を歩きながら、いきもの達を観察しましょう。花の名前の由来や、昆虫と植物の関わりなどについて、専門の先生から解説いただきます。昆虫を観察するためのかごを、ご用意ください。

●夏休み親子観察会

開催日時：2015年7月20日（日）9:30

集合場所：高原の自然館

講師：岩見潤治・佐久間智子・内藤順一・松田賢
定員：20組（小学生以上の親子）

準備物：濡れてもよい服、川に入れる脱げない靴、帽子、雨具、着替え、飲み物、タオル

参加費：一般=300円、賛助会員=100円

正会員・中学生以下=無料

霧ヶ谷湿原の中央を流れる川で水生昆虫を観察します。川の中には普段目に付かないような小さな生き物がたくさん！小学生以上の親子でお申し込み下さい。

カキツバタの時期も終わり、梅雨真っ最中の今では、モリアオガエルがコロコロコロと日々BGMを奏でています。なんと自然館横の溝でも先日産卵している真っ最中のモリアオガエルを確認しました！自然を身近に感じられる八幡がますます好きになりました。[まえだふさ]

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先（ご意見・ご感想もお待ちしております）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）

〒731-2551

広島県山県郡北広島町東八幡原10119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info